

平成28年8月17日(木) 午後2時30分～午後4時30分

報告事項1

第3回徳島県教育振興審議会について

教育創生課

第3回徳島県教育振興審議会 会議概要

- 1 日 時 平成29年8月17日(木) 午後3時から午後5時まで
- 2 場 所 徳島県庁 10階 大会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 23名中 21名出席
 - (2) 県 教育長及び教育振興計画策定検討会議会員の26名出席
- 4 内 容 「徳島県教育振興計画(第3期)」(素案)について
- 5 審議会委員から出された主な意見(「徳島教育大綱」の3つの重点項目別に整理)

(1) 重点項目Ⅰ 地方創生から日本創成へ！ 「徳島ならではの」教育の推進

- ・高等学校にも、特別な支援を必要とする生徒が在籍していることから、特別支援教育巡回相談員やスクールカウンセラー等との連携を推進する必要がある。高等学校に在籍する発達障がい等のある生徒支援策である「自立活動等を取り入れた教育」についても周知していただくことで、学校としても必要に応じて取り組んでいきたい。(素案p.39)
- ・小学校でどのような意識を持ってキャリア教育に取り組んでいくべきかという記述が少ないように思う。キャリア教育というと、まずは職場体験などと考えがちだが、自分が学んでいることが将来どのようにつながるのか、自分の知らない職業がどれだけあるのかなどについて、小学校段階からしっかりと理解しておく必要がある。(素案p.40)
- ・デュアルスクールは非常にいい取組であるので、相手方の教育委員会や学校が存在し、煩雑な事務手続も多いということであるが、今後も進めていただきたい。振興計画の記載としては、何が煩雑であるのか、課題をより具体的に記述すると、読み手が理解しやすいのではないか。(素案p.42)

(2) 重点項目Ⅱ 一人ひとりが輝く！ 徳島の未来を育む教育の推進

- ・新学習指導要領に示された、育成を目指す資質・能力の3つの柱で着目しているのは、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成である。学校が保有するICT機器を子どもに自由に活用させることにより、表現力を育成する教育を推進するべきではないか。(素案p.41, 45)
- ・ICTを積極的に活用できる環境を整え、表現力を育成する教育の推進と同時に、それを使う人間の人間性に係る教育の推進が欠かせない。人間性が育っていないと、技術の誤った使用につながる。人間性の育成については、道徳教育をはじめ、学校の教育活動全体を通じて行うことが大切である。(素案p.41, 55)

- ・超高齢社会を迎えるにあたり、「生命・絆の大切さに関する教育の推進」において「認知症サポーターの養成」を記載していただいたことに敬意を表す。ただし、素案全体を見渡した場合には、児童生徒と高齢者との交流やふれあいに関する記載が少ないと思われる。(素案p. 48)
- ・「全国モデルの消費者教育の推進」において、エシカル教育についてしっかり記載している。ただし、消費者教育というのはエシカル教育だけではない。金融経済教育、情報リテラシー、環境教育、さらにはライフプランニングに至るまで非常に広範に及ぶのが消費者教育である。主体的・能動的・実践的な手法を取り入れなければいけない教育分野であることから、「ライフステージに応じたアクティブラーニングを積極的に導入する。」等の表現を盛り込んではどうか。(素案p. 59)

(3) 重点項目Ⅲ グローバル社会で活躍！ 徳島から世界への扉をひらく教育の推進

- ・素案全体としては、日本のトップクラス、さらには世界を目指そうという趣旨の素晴らしい取組が列挙されており、教育として、子どもの世界を外に広げようとする方向性には賛成する。しかし、本県では人口減少問題にオール徳島で対応しようという大前提がある。素案に記載された取組を実践すると、子どもは県外に流出する一方である。「『とくしま回帰』の促進」として、小・中・高校生を対象にして、将来的な人の流れを徳島に呼び戻す取組がさらに必要ではないか。(素案p. 64)
- ・「徳島サマースクール」(Tokushima 英語村プロジェクト) が開催中(平成29年8月16日から8月22日まで)である。県内・県外出身を問わず、参加者の間からは、徳島県、とりわけ牟岐町が特別の存在になっているという声を聞く。「『とくしま回帰』の促進」のためには、このような取組を、一つ一つ丁寧に積み重ねていくことが大切である。(素案p. 64, 66)

(4) その他

- ・第4章に記されている「今後の取組」全体について、具体的な記載をさらに盛り込むべきという意見もあるが、振興計画であって事業計画ではないので、あまり詳細なことを書く必要はない。また、めまぐるしく変化する時代であり、今後5年間で正確に見通すことは困難であるので、提案されている素案のように、余裕を持った書きぶりが適切であると考えます。
- ・振興計画を活字にしようとする、「新しい」「先進的」等の文言を使用する傾向になるのは理解できる。今後の計画に、原理原則に戻りましょうと書くのは難しいことだと思う。しかし、今こそ重要なのは、予測不可能な変化にも通用する基礎体力、つまり個別の事象の善し悪しではなく、個別の事象の背景にある原理原則を知ることである。そうした教育をおろそかにすると、新しい技術や統計数値を前にして、右往左往するだけで、対処できない人間を育成してしまう。

